

クラス番号	612	担当教員名	篠田道子
テーマ	地域包括ケア時代に求められる保健・医療・福祉サービス		
著書・論文 研究課題等	<p>【著書】①「チームの連携力を高めるカンファレンスの進め方（第2版）」（共編著，日本看護協会出版会，2015）②「ナースのための退院調整（第2版）」（共編著，日本看護協会出版会，2012）③「多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル」（医学書院，2011）、④「高齢者の終末期ケアの質を高める4条件とケアマネジメント・ツール」（共編著，中央法規，2010）⑤「質の高いケアマネジメント」（中央法規，2008）など</p> <p>【論文】篠田道子（2015）：「フランス介護保障制度の動向－地域包括ケアシステムへの示唆と課題－」健保連海外医療保障 No. 107, P11-19 など</p>		

ゼミナール概要

キーワード：地域包括ケアシステム、先駆的事例、退院支援、多職種連携、終末期ケア、認知症ケア、福祉機器

目的、内容、方法等：

- 1) 本ゼミは、地域包括ケアシステムの先駆的事例、退院支援におけるソーシャルワーク（多職種連携含む）、終末期ケア（尊厳死）、認知症ケア、福祉機器開発など保健・医療・福祉サービスに関するテーマを幅広く取り扱っています。病院、福祉施設、グループホーム、NPO、行政、福祉企業でのフィールド調査に力を入れます。
- 2) 地域包括ケアシステムの先駆事例、退院支援（MSWの役割と多職種連携）、終末期ケア（尊厳死やホスピス）、認知症ケア（認知症予防から終末期の意思決定）、福祉機器の開発や住宅改修などに取り組みます。
- 3) 卒業論文を書き上げるためのスキル（読む、書く、調べる、伝える、聞く）を磨くため、卒論に関連したレポートを年に数回は提出してもらいます。
- 4) ゼミ生に獲得して欲しい能力は、多面的に情報収集し、物事を分析し、言語化し、他者の意見や環境の変化に対応しながらしなやかに生き抜く「弾力性」、そして意思を貫き、あきらめない「精神的なタフさ」です。

ゼミの進め方：

- 1) 3年生の前半は、地域包括ケアシステム、退院支援におけるソーシャルワーク、終末期ケア、認知症ケアなどに関する文献や資料を読み、基礎知識の習得を目指します。毎回報告者を決めて、レジュメの書き方、プレゼン方法、質問の仕方を学びます。
- 2) 先駆的な取り組みを行っている実践現場（病院、福祉施設、グループホーム、NPO、行政、福祉企業等）に赴き、見学やヒアリングなどフィールド調査を行います。
- 3) 3年生の後半は、フィールド調査の結果について意見交換を行い、保健医療福祉サービスの現状を多面的に検討します。サブゼミごとにテーマを設定して、まとめやプレゼンテーションを行います。
- 4) 3年生の終わりには卒論のテーマを決め、春休みから少しずつ書き進めていきます。
- 5) 4年生の前半は卒論を執筆し、後半からは国家試験の勉強に本格的に取り組み、全員合格を目指します。
- 6) 過去のゼミ活動では、福祉企業とゼミ生がチームを組み、「座位保持クッション」を開発したり、ユニットケアやグループホームのビデオを作成したり、学内のデジタルコンテストで入賞するなどゼミ生の活動が評価されています。
- 7) ゼミ生の希望に出来る限り応じたいと思います。これまで評判の良かったものは、MSW・高齢者施設・企業へのインターシップ、企業と共同開発した福祉用具、緩和ケア（ホスピス）病棟へのヒアリングです。
- 8) 就職対策として、①模擬面接の実施、②履歴書や自己アピール書の添削、③卒業生が勤務している病院・施設・企業へのインターシップ、④プレゼンテーションスキルのアップなどを実施します。
- 9) 大学院を担当しているため、大学院への進学も相談にのります。

担当教員からのメッセージ

いつでもメールにて受け付けていますので、お気軽にご相談ください (mshino@n-fukushi.ac.jp)。福祉は『実践の学問』です。そのため、先駆的事例などのフィールド調査を積極的に行います。私自身の興味関心の範囲がとても広いので、あまり専門性にこだわっていません。主体的に参加し、遅刻・欠席をしない人、前向きな人を希望します。

本ゼミは、先輩や現場で出会った人々のつながりを大切にしています。コンパやフィールド調査を活発に行いたいと思います。2年間のゼミの集大成としての卒論は、ゼミ活動をコツコツ積み重ねていけば必ず書けます。「継続は力なり」で一緒に頑張りましょう！